



学校だより

《学校教育目標》 (知) 主体的に学ぶ生徒
(徳) 正しく判断できる生徒
(体) 心身を鍛える生徒
〈No. 8〉 令和3年10月1日

さいたま市立白幡中学校

〒336-0022 さいたま市南区白幡2-18-13

TEL 048-861-3203 (学校)
866-5789 (相談室)

<http://shirahata-j.saitama-city.ed.jp>

心を一つに

校長 長島 淑子

朝、正門と南門が見える階段下にいると、どちらから来る生徒も、「おはようございます」とすがすがしい挨拶をしてくれることが多くなりました。20分に遅れそうになると、小走りで急ぐ生徒がほとんどです。駅伝の練習で朝から走っている生徒たちも、息を切らしながら挨拶してくれます。コロナでどんなに思うようにいかないことが多くても、自分たちにやれることはしっかりやっという思いが伝わり、ますます応援したくなります。

1学期の体育祭の時も、様々なところで助け合ったり応援し合ったりする姿が見られ、いまさらながら、学校行事のすばらしさを実感しています。感染防止のために中止していた部活動も、学校内の状況が良くなってきた9月半ばから再開し、朝清掃も再開しています。

先日の生徒会選挙も、先生方の工夫で、自宅からも演説を聞き、投票できるようにしました。合唱祭は、10月から授業の中でのみ練習を始めてみる状態のため、10月27日に文化センターでは行わず、今後の感染状況と曲の仕上がりをみて、何らかの形を検討中です。他の行事も、今までと同じようにとはいきませんが、感染防止対策を取りながら、生徒たちの豊かな心を育むため、やり方を工夫して取り組んでいきます。やむを得ず家庭でオンライン授業に参加している生徒も、朝の出席確認から各授業に参加し、心を一つにしてこの状況を乗り越えましょう。

さて、保護者の皆様、ご家庭でのお子様の様子はいかがでしょうか。

中学生の時期は、大人と子どもの狭間で、悩みや不安と闘いながら、自己実現を図っていく大変大事な時期です。一方、親からの干渉を嫌い、家族から距離をおきたがる時期でもあります。私は自分の子どもが小さい時に、母からこんなことを教わりました。「赤ちゃんの時は肌を離さず」「幼児の時は手を離さず」「小学生の時は目を離さず」「中学生になったら心を離すな」。2人の息子を育てて、これは実感として強く心に残っています。中学校の3年間は、難しい年ごろになりますが、まさに「心を離すな」の時期にあたります。彼らなりに一生懸命不安と闘い、考え、乗り越えようとしているのです。現在は、コロナという新しい難題も加わり、昔よりストレスが多くなっているでしょう。それを乗り越えていくための原動力として、先生、家族、友達の存在はとても大きいと思います。学校では、教職員一同、一人ひとりの生徒に目をかけ、手をかけ、声をかけ、心を掴みながら教育活動を進めてまいります。ご家庭におかれましてもお子様と過ごす時間を増やしたり、一緒に家事をしたり、学校の出来事を聞いて会話を楽しむなど、心をつなぐ工夫をしていただきたいと思います。

緊急事態宣言が解除となり、10月1日から通常登校にもどります。また心を一つにして、学習や運動にみんなで取り組むことができます。これからも、仲間と力を合わせて問題を解決し、乗り越えていこうとする生徒たちを温かく見守っていきたいと思います。壁にぶつかってつまずいても、また起き上がって前向きに立ち向かう人になれるよう、教師として、親として、まずは、良き相談相手になりましょう。

コロナに関しては、まだまだ、油断は禁物です。いつ「リバウンド」が来るか分かりません。

登校している生徒もオンラインの生徒も、気を引き締めて、今までよりさらにしっかりと感染対策をしていきましょう。